



人と人とのつながりで  
故郷を魅力のあるまちに

加藤 つとむ 勉さん(64歳)出石町奥小野



但馬國出石観光協会専務理事の加藤さんは、日々、出石の観光振興に携わる傍ら、出石町大行列保存会やいずし落語笑学校、奥小野はす同好会、チクタクひぼこの運転手など、地域の活動に積極的に参加しています。

旅先で、旅行者の印象に残るのは、地域や人への熱い思い。元来、人と触れ合うことが好きという加藤さんは「人と人とのつながり」が何よりも大切」と語ります。さまざま活動に参加することで、普段つながらない人とも会話

ができ、会話をすることで理解が深まり、絆が強まります。また、自分を育ててくれた地域に感謝の気持ちを持ち、活動に参加することで郷土愛が育まれ、それが観光客に対する「おもてなしの心」へとつながります。

旅先で、旅行者の印象に残るのは、そこに暮らしている人との交流。「つながり」の輪を広げ、住民一人一人が「おもてなしの心」を持つことで、出石を、そして豊岡全体を、より魅力のあるまちにしていきたい」と笑顔で語ります。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲子どもたちが「昆虫博士、これなに〜?」

但馬国府・国分寺館 昆虫博士と虫さがし  
トンボ、バッタ、コガネムシ……。

8月1日、市立歴史博物館「但馬国府・国分寺館」で、県立人と自然の博物館の主任研究員の山内健生さんを迎え「昆虫博士と虫さがし」を行いました。子どもたちは、歴史博物館の周辺に住む昆虫について簡単な説明を受けた後、虫かごや虫取り網を手に取って、真夏の太陽がまぶしい山林にいざ出発。周辺には、小川があり、田んぼや草むらもたくさん広がっています。トンボやバッタ、ヤゴやサワガニを捕まえた子どもたちは、昆虫博士に「これなに?」「でかいの捕った!」と元気いっぱい。コガネムシを捕まえた小学5年生の太田垣 光君(朝来市)は「夏休みの日記に書こう!」と満足そうでした。

ハスマつり

ハスを見て、食べて、飲む!

8月2日、いっちゃんおっちゃんの蓮池(但東町平田)で、ハスマつりが開催されました。平成16年の台風23号の土石流で埋まった田んぼをビオトープにし、8年前からハス池に。近所で評判となり、5年前からまつりを開催しています。去年は、イノシシに荒らされてまつりを開催できませんでしたが、今年は500本以上のハスの花が咲きました。来場者は、はす茶やはすご飯、ハスクイズを楽しむとともに、象鼻杯(ハスの葉に飲み物を注ぎ、茎から飲むもの)体験で盛り上がっていました。夏休みを利用して家族で訪れた小学1年生の尾辻亮太君(西宮市)は「くりご飯みたいに甘くておいしい」と、はすご飯を頬張っていました。



▲淀 逸郎さん(いっちゃん)からハスの説明

